

## 平成24年度 第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成24年度 第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成24年12月25日(火) 午後1時30分～3時00分
3. 開催場所 木更津市役所 6階委員会室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名  
金子 馨委員、橘田 昭雄委員、實形 裕介委員、藤平 量郎委員、野中 徹委員、  
三浦 茂一委員、須田 昭平委員、鹿間 和久委員  
教育委員会事務局 7名  
初谷教育長、石井教育部長、本多教育部次長、高橋文化課長、小高副主幹、中能副主幹、時山主事
5. 議題及び公開又は非公開の別  
議題1 『図説 木更津のあゆみ』刊行の総評  
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(小高副主幹) お待たせいたしました。  
ただ今より、平成24年度第3回木更津市史編集委員会を開会いたします。  
本日の会議は、相山・高崎委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により委員の半数の出席により成立しております。  
また、本日の会議は公開で行い、会議録の作成のため、録音をさせていただきますので併せてご了解願います。  
それでは、はじめに 初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局(小高副主幹) 続きまして、橘田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

橘田委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局(小高副主幹) ありがとうございます。  
では、これから議事に入らせていただきます。議長は、委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長お願い致します。

橘田委員長 それでは、議長を務めさせていただきます。宜しくお願い致します。

早速、議事に入らせていただきます。

本日は、市制施行70周年記念『図説木更津のあゆみ』刊行の総評ということでございますので、事務局より説明願います。

事務局（小高副主幹）（議題説明）

橘田委員長 事務局より、本日の議題の説明がございました。『図説木更津のあゆみ』の構成や内容などを検証してほしいということですが、意見があればお願いいたします。

三浦委員 想像以上によくできたと思います。短い時間でかつての木更津市史以上のものができるのか心配してましたが、現在の研究水準を反映して立派なものになっていると感じました。

橘田委員長 はい。實形委員どうぞ。

實形委員 『図説木更津のあゆみ』をどう活用するか話し合わなければいけません。市民にどう利用していただくかですね。子どもにもわかりやすくできていると思いますので、教材として使うのも良いですね。

橘田委員長 事務局では『図説木更津のあゆみ』をどのように活用するか考えていますか。

事務局（小高副主幹） 特に考えはございません。

ただ、今回の『図説木更津のあゆみ』は、市民の皆様にも木更津の歴史等に関心を高めていただくことを目的として作りましたので、まずは広く皆様に知っていただいて、手に取っていただくことが大事だと考えております。

図書館に5冊、閲覧用に1冊提供しているほか、市内の小中学校に資料用と閲覧用と2冊提供しております。また、公民館にも資料として1部ずつ提供しています。そして、博物館でも資料をご提供できるように取り扱わせていただいています。このように、公共施設を通して皆様に手に取って見ていただく機会を設けるようにしています。

橘田委員長 わかりました。では、野中委員お願いします。

野中委員 他市の関係者30人くらいに『図説木更津のあゆみ』のことをお話したところ、非常に興味を持っていただきました。重いですが、写真が鮮明である

とっておりました。

橘田委員長

わかりました。では、藤平委員お願いします。

藤平委員

全編を見まして、現在の木更津もすばらしいと思いますが、古代、中世と古くから伝統があり房総中部で1番のまちだと思いました。

自然についてですが、表紙に空きがあるということで、私どもはそこに概説を入れ、裏表紙にはトピックスを入れる用意をしました。

しかし、誤解だったようなので残念でした。以上です。

橘田委員長

そうでしたか。では、金子委員、総括をお願いします。

金子委員

私の知り合いの方々に『図説木更津のあゆみ』を読ませて、感想をいただきましたので報告します。

全体的に構成内容が良く、現在の木更津市のことが「はじめに」の中にコンパクトにまとまっている。自然編では、現在の自然環境を図説しているところが良い。また、第2章の「木更津の生きもの」、「8新たに出現した生きものたち」はまさに現在の自然環境について述べられていて興味を引く。民俗編については、現在なくなりつつある身近な風習を記述して後世に残すことは重要で、なおかつ写真も掲載しておりわかりやすい。全体に資料や写真が豊富でわかりやすい。巻末に所蔵や提供者一覧表があるのは読者には嬉しい。表紙等の見た目が良い。文字の書体・大きさもちょうど良く、3段組になっていて読みやすい。各編ごとに色分けしているので、読みたい編を見つけやすい。新しく木更津市に移住してきた方が多くいるので、千葉県はどこに木更津市があるのか地図で位置づけしてほしい。市章や市花を紹介してほしい。といったような報告がありました。全体的に好評でした。

橘田委員長

はい、ありがとうございました。次に須田委員お願いします。

須田委員

博物館でも『図説木更津のあゆみ』を販売させていただいておまして、大変売れ行きが良いです。来館者の皆様より、写真や絵がたくさんあって読みやすく楽しく読めるという感想が寄せられております。そういう意味では、当初想定した誰でも楽しく読めるという目的は達成できたのではないかと思います。

橘田委員長

博物館で感想を述べる方もいるんですか。

須田委員                    はい。博物館でも金鈴塚古墳の図録と金鈴塚古墳研究の2冊の冊子を販売しているのですが、金鈴塚古墳の図録の方は500部あつという間に完売いたしました。

一方、字が多い金鈴塚古墳研究は半分ほど売れました。現代は、目で見ても楽しむという流れになっていると感じます。今後この傾向が続いていくなれば、市史編さんの取り組みのポイントになるかと思います。

橘田委員長                金鈴塚古墳研究は研究者向けですね。一般の市民が喜んで買うことはしませんね。

今は文化課と博物館でしか販売していないので、博物館に来て見ていただきたいですね。

須田委員                    郵送での販売もしていますよね。

事務局（小高副主幹）    はい。本代を送っていただき送料着払いで発送しています。

橘田委員長                わかりました。では、鹿間委員お願いします。

鹿間委員                    平成23年度から委員をやらせていただいて、そのときには『図説木更津のあゆみ』の編集方針等決まっていた、編集に入っていました。様式等一緒に見当させていただきました。新千葉新聞等で『図説木更津のあゆみ』が紹介されていて、委員になれたことを大変光栄に思っています。

各委員もおっしゃっていましたが、図説ということで、写真や絵が多くあり、わかりやすく非常に良いという声が私の耳にも入っています。『図説木更津のあゆみ』を次の市史編さんにうまく活かしていくと良いと思います。本として大変素晴らしいと思いますが、今後の有効活用もできると思います。

橘田委員長                ありがとうございました。私は『図説木更津のあゆみ』刊行されて、市民の方がどれほど親しみをもってくれるか気になっていました。

私は、同級会等で大いに宣伝しましたが、反応は大変良かったです。君津市や袖ヶ浦市の方々にも評判が良いです。

課題としては、市民にどう活用してもらおうかですね。

では、何か気になった細かい点はありますか。三浦先生どうぞ。

三浦委員                    近所の方が『図説木更津のあゆみ』を購入し、友達の分も購入したそうです。その方のところに木更津市教育委員会から『図説木更津のあゆみ』が1冊届いたそうで、感激したそうです。届いた理由がわからないと言っていた

ので、市制協力委員だからではないかと説明しました。他の協力委員の方々にも送っていただけましたでしょうか。

事務局（小高副主幹） 関係者の方々に『図説木更津のあゆみ』を発送いたしました。編集委員、執筆委員の方々以外に史料をご提供いただいた方々、市史ボランティアに登録された方々に送らせていただきました。

三浦委員 そうすると、『木更津のあゆみ』の185頁に伊藤勇吉町長の写真がありますが、写真提供者の伊藤様にも送っていますか。

事務局（小高副主幹） はい。資料を提供していただいた方には全員お送りしました。

三浦委員 細かく気を遣ってくださりありがとうございます。  
また、31頁に鎌足桜について、「育成されたサトザクラである」と説明があります。私は感心しながら読んでいました。  
しかし、最近頂いたパンフレットにはヤマザクラであると書かれています。

藤平委員 正式名称はヤマザクラではないですね。

三浦委員 そうですか。鎌足桜は木更津市の指定文化財ですか。

藤平委員 はい、そのようです。  
鎌足桜はヤマザクラではありません。鎌足桜は、ヤマザクラと同じように葉柄に蜜線が2つありますので、系統が同じかと思われたと思います。花卉の数は80ほどありますので、絶対にヤマザクラではありません。

三浦委員 私は、ヤマザクラより大きい類にサトザクラがあり、サトザクラの中のヤマザクラだと思っていました。

藤平委員 違います。人間が選んで育成した桜を総称してサトザクラといいます。

橘田委員長 自然交配が行われていてその中から突然変異したものが多く出てきますよね。それを育成したのがサトザクラで、鎌足桜もその一つですよ。

藤平委員 はい。サトザクラは何百種類もあります。鎌足桜はその一つです。

三浦委員 サトザクラの中にはヤマザクラはないということですよ。



名の文字の間違いがあります。また、執筆委員の方が執筆した場所の数字が抜けていたという間違いがあります。

正誤表の左側の正税・出挙の取り扱いですが、執筆委員の方から、正税と出挙の間に中黒を入れると正税と出挙は別々の意味を持つかのように捉われるが、自分としては正税の中の出挙と表現したかったというご指摘がありました。

また、郡田は、「こおりだ」ではないのかというご指摘を受けました。郡田につきましては、小字の一覧表で確認しますと、現時点では「ぐんでん」と読んでおります。どちらで「こおりだ」という表記されていたのかこちらでは把握しておりませんので、「ぐんでん」のままにしております。

他に新田が「にうた」となっていますが、正しいかどうかは確認中です。

次の伝馬について執筆者の方から「でんめ」と指摘されましたが、辞書ではすべて「てんま」になっております。なので、どちらが正しいのかはっきりしません。指摘事項は以上です。

實形委員

どこかで集約して図書館等の配布先に正誤表を送らなければいけませんね。年度末までに正誤表をお送りする予定ですか。

事務局（小高副主幹）

ある程度の期間を決めて、集約次第お送りすることを考えております。今のところ、「にった」か「にうた」かの取り扱いについて確認がとれれば、この段階で正誤表を作成してもよろしいかと思えます。

三浦委員

それでは、読み直して何か気付けば、文化課に連絡するというところでよろしいですか。

橘田委員長

そうですね。文化課が集約することになりますね。

三浦委員

ところで、145頁の上の写真に「至徳堂」篇額とありますがキャプションが間違っていますね。「扁額」です。

また、144頁に筆子塚の場所を説明した写真がありますが、「鈴木元明」ではなく、「鈴木元朋」です。

橘田委員長

気がませんでした。

實形委員

執筆者の方に正誤表を出すようお願いしていますよね。

事務局（小高副主幹）

していません。

- 實形委員 呼びかけをしないとイケませんね。明らかな誤植については訂正していただいて1枚にまとめて下さい。
- 三浦委員 234頁の図に「岩根駅」とありますが、「巖根駅」です。  
また、251頁ですが小見出しは「市域の変容」となっていますが、3段目の本文には「変様」となっています。直したほうが良いと思います。  
それから、288頁に5-21重城巖の東洋自由新聞購読料領収書が『東京自由新聞』から転載となっていますが、『東洋自由新聞』ですね。明確な間違いです。見落としていました。
- 橘田委員長 ありがとうございます。他に気付いたところありますか。須田委員どうぞ。
- 須田委員 自然編や原始古代で氷期や氷河期という言葉が出てきますが、年代によってずれがあります。ゆえに、今後は自然編の執筆者と歴史を書いている執筆者が議論する場が必要ではないかと思います。  
また、趣旨とは関係ありませんが、長野県の松本市に林忠崇の研究をなさっている方々が『図説木更津のあゆみ』を見て、ぜひ木更津市に見学に来たいとおっしゃってくれました。長野県にも林家の研究会があるようで、そういった方々との交流も今後必要になってくるのではないかと思います。
- 橘田委員長 その方は博物館に訪ねてきたのですか。
- 須田委員 はい。その方は千葉市と松本市を行ったり来たりしているとのことですが、来年研究会の方々を連れてくるとおっしゃってくれました。
- 橘田委員長 関心を持ってくれる方がいるんですね。ありがとうございます。  
他に何かございますか。  
もう一度誤字脱字の確認のため会議を開催しますか。
- 實形委員 気が付いたら文化課に申し出て、集約してもらおうと良いと思います。1枚に収まるようにしなければイケませんね。
- 橘田委員長 事務局のご意見はありますか。
- 事務局（小高副主幹） 校正委員の方々には内容を細かく確認していただきましたので、できれば



校正委員の方々に各編まとめたものを事務局に送付していただければ対処したいと思います。よろしく願いいたします。

橘田委員長                    はい。ふりがなの間違いを指摘されるとは細かいですね。

實形委員                    一般向けのふりがなだと認識してもらわないと困ります。古代の場合、現代人の発音でふりがなを振らないといけません。

橘田委員長                    そうですね。他にご意見ございますか。  
それでは、各委員から貴重なご意見を出していただき、ありがとうございました。

『図説木更津のあゆみ』を刊行しましたが、後の木更津市史本編にどうつなげていくかどうかですね。予算や場所の問題があります。大事な史料がなくなっていくのも問題です。

編集にあたって調査したり、研究したりしましたが、資料はそれぞれで保管して今後役立てたいと思います。

市の長期計画に位置づけられ、新しい市史づくりにつながっていけば良いと思います。

事務局何かございますか。

事務局（高橋課長）            實形委員からいただいた資料ですが、皆様の今後の検討課題としていただきたいと思います。

橘田委員長                    はい。では、この資料を一読して考えを深めていただければと思います。

須田委員                    せっかくですので、ご説明いただければと思います。

實形委員                    橘田委員長がおっしゃったように、できることをやっていきたいと思います。編集委員会としての提言をまとめておきたいと思っています。『図説木更津のあゆみ』を起点にして、市民の学習の場を設けるなど市の役割を果たす必要があると思います。

橘田委員長                    はい。検討する必要がありますね。他に何かございせんか。

事務局（高橋課長）            ございせん。

橘田委員長                    それでは、本日の協議はこのあたりで終了したいと思います。進行を事務

局にお返しします。

事務局（高橋課長）

以上で平成24年度第3回木更津市史編集委員会を終了いたします。  
お疲れさまでございました。

平成24年12月25日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄